

3. 全体事業の評価

今年度事業の総括的評価と来年度の展開

広島大学科学わくわくプロジェクト研究センター長 林 武広

科学わくわくプロジェクトは1年目の試行を加えると今年度で5年目を迎えた。この間、団体助成以外の活動は第1回から全てを継続して実施してきた。その途中では、よりわくわくできるよう、内容や指導過程を改善してきた。サイエンスレクチャー、ジュニア科学塾、科学塾は継続によるためか、その存在がかなり知られるようになってきた。教育関係者のみならず企業関係者からも、わくプロを知っているとの声が聞かれるようになってきた。研究員、客員研究員さらに講師の方々のご尽力の賜である。参加者アンケートも初年度から継続して分析してきたが、それぞれの活動における参加者の反応傾向も昨年度、一昨年度と比較して大きな違いは見られず、概ね一定している。わくプロが社会の中で、ある程度は周知された結果、わくプロに参加する生徒像が安定してきたものとみなされる。

わくプロの当初の根本的目的は、“理科好きな生徒のため科学にわくわくする活動を提供すること”、“理科好きな生徒のすそ野拡大”であった。アンケート分析結果からも、理科好き・科学好きな生徒が参加する傾向は顕著で、本格的な科学に触れたいと願う生徒が大半である。また、彼らは本格的な観察・実験の機会を第一に希望している。サイエンスレクチャー、ジュニア科学塾、科学塾とも、生徒の活動の様子、アンケートから判断すると、根本的な目的は果たしていると考ええる。今後は、さらに充実した活動を工夫したいと考える。

小学理科ネットは、現時点で必ずしも十分な成果が上がっていない。特にウェブサイトに関しては、コンテンツそのもの、およびウェブが持つ特長である速報性、更新性に課題がある。その原因として、ウェブマスターをおいていなかったことを始め、運営体制の確立が不十分であったことは否めない。従って、わくプロの活動をより効果的に広く社会に伝えることをふまえて、サイト管理体制を再構築したいと考える。その一方で、直接、小学校にインストラクターが出向いての出前講座は効果が上がっていることもあり、今後は対象校を増やすこと、そのためのコアメンバーを新たに設置すること等、一層の推進を図りたいと考える。

来年度は、わくプロの本格的活動を開始してより5年目を迎え、一区切りを迎える。その意味でこれまでの活動を総括し、理科好きな生徒のためにどのような仕組みが有益であるのか、どのような活動が有効であるのかを来年度末に取りまとめ、提案する予定である。それをふまえて次期プロジェクトのあり方を検討したいと考える。